サンタ捜索チーム始動

聖夜の奇跡信じ 正体解明へ全力

Vol.1 どうしん夢プロジェクト

サンタクロースの存在を信じる子どもたちのため、サンタの行方を追う「どうしんサンタ捜索チーム（以下サンタ捜索チーム）」が、今年も活動をスタートさせる。活動3年目の今年は、活動範囲をさらに拡大し、新たな捜索アイテムも導入予定。さまざまな手法でサンタの謎に挑む同チームに、各方面から大きな期待が寄せられている。

今年、北海道新聞社屋上に新設予定の、サンタの離着陸専用の「サンタポート」完成イメージ（札幌市中央区）

完成イメージ拡大画像

サンタは本当に存在するのか――。世界の人々が抱き続けてきた謎に挑戦するのが「サンタ捜索チーム」。同チームは、サンタを信じる子どもたちのため、北海道新聞社広告局がどうしん夢プロジェクトとして発足。2010（平成22）年11月から活動をスタートし、サンタクロースの目撃情報の収集をはじめ、ライブカメラを設置。調査経緯を北海道新聞朝刊広告で発表した。また、トナカイの赤い鼻から発せられる特殊波をキャッチする「トナカイレーダー」を稼働させ、その航跡を「サンタ特設WEB」で公開するという画期的な試みも行った。初年度は、さっぽろテレビ塔（札幌市中央区）の展望台屋上部分に、サンタと思われる足跡が発見された情報を公開。同年12月24日未明には、同施設の上空を猛スピードで横切るサンタらしき影をライブカメラに収めることにも成功した。

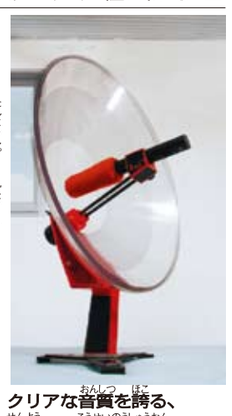
翌年には、サッポロファクトリー（中央区）内の「煙突広場」にて、サンタが残したと思われる赤い布が発見されたことをスクープ。また、同年のクリスマスイブには、札幌もいわ山ロープウェイ展望台（南区）で、大きなそりとトナカイの足跡を発見するに至った。

同チームは今年、特別捜査班の新設や捜索アイテムなどを強化し、さらなる捜索活動の拡大を狙う。捜索本部のある北海道新聞社（中央区）の屋上には、今までのトナカイレーダーを進化させ、8頭のトナカイの詳細な動きを追うことができる「新トナカイレーダー」や、世界中を飛び回るサンタのために、目印となりやすく、離着陸も可能な「サンタポート」を設置する予定。周辺住民への聞き込みや、調査も精力的に行い、情報収集を強化する。

今年、同チームが注目している場所は、昨年サンタの笑い声が聞こえたといわれる北海道四季劇場。現在、同劇場では舞台『マンマ・ミーア！』を上演しており、連日多くの観客でにぎわっている。「人が集まり、幸せな時間を過ごしている場所にサンタは出現しやすいため、目撃情報を集めたい」と担当者は語気を強める。

高性能の集音マイクも

サンタ捜索チームが切り札として準備を進めているものの一つが、高性能集音マイク。直径は約1・5㍍で、民間での利用は全国で初。野生動物の調査などに用いられる高感度集音器に、8人までモニタリングできるヘッドホンとICレコーダーを付加し、サンタ捜索用に改良。約5㌔先の対象物の声までクリアに集音できるという。昨年、北海道四季劇場上空で聞こえたとされるサンタの「ホーホー」という笑い声もキャッチすることから、期待が高まっている。「この秘密兵器を使って、サンタの笑い声や話し声を集めたい」。



クリアな音質を誇る、専用の「高性能集音マイク」

劇団四季が今年も協力

マンマ・ミーア！な奇跡を信じて

18日、サンタ捜索チームは、北海道四季劇場付近に集音マイクの設置を検討していることを明らかにした。集音マイクで集めた音声を専門機関で徹底検証し、サンタの解明につなげるという。

「この劇場は、夢や希望でいっぱい。だから今年もサンタは来てくれると思います」。笑顔でそう話すのは、ミュージカル『マンマ・ミーア！』に出演中の荒川務さん。荒川さんは、主人公ソフィの父親候補の一人、建築家サム・カーマイケル役を熱演している。

「昨年、劇場付近でサンタの笑い声が聞かれた話は知っていました。恐らくトナカイが間違って前作の『ライオンキング』に出演し、それを見たサンタが笑ったのでしょう。今年も彼は来ますよ。なぜなら、ソフィがお父さん候補の3人に手紙を出すとき、サンタへも『劇場に来て』と手紙を送ったようです。」と、ユーモアたっぷりにサンタへの期待を語ってくれた。

また、親子関係、友情、恋愛、子どもの自立などのテーマをしっかりと描いているところも作品の魅力。「見る人によってさまざまな見方で楽しめる作品なので、サンタにも見に来てもらい、感想を聞きたいですね」。

『マンマ・ミーア！』は、12月19日から24日までの間、「クリスマス特別カーテンコール」を行う予定。期間中は多くの観客で混み合うことも予想されるが、「マンマ・ミーア！（イタリア語で「なんてこと」の意）」な奇跡を信じながら、作品の華やかで感動的な世界に浸ってみてはいかがだろう。

華やかな衣装とダンスで観客を魅了するミュージカル「マンマ・ミーア！」（撮影：荒井健）

荒川　務（あらかわ　つとむ）
東京都出身。1986年『ウエストサイド物語』のリフト役でデビュー。『クレイジー・フォー・ユー』で主役ボビーを演じるほか、『美女と野獣』では野獣、『キャッツ』ではラム・タム・タガーなど、数々の舞台に出演。

どうしん夢プロジェクト 広告企画

特捜班「S・A・N・T・A」誕生

実績のある場所を重点的に

「S.A.N.T.A」が捜査をすすめる「北海道四季劇場」

サンタ捜索チームは18日、捜索活動を強化するため、約50人態勢の特別捜査班「S・A・N・T・A（サンタ／Special Attack National Team for santA）」を発足させた。この「S・A・N・T・A」は北海道新聞社札幌本社に本部を置き、同チームから選抜したベテラン調査官と国内外の大学、研究機関の学者、研究者らで構成。フィンランド、デンマークなど十数カ国の専門機関と連携してサンタの生態の情報収集や捜索に取り組む。未確認物体・潜水物体などの調査活動で、これほど大規模な取り組みは、1958（昭和33）年にソ連科学アカデミーがイエティ（雪男）の捜索を行って以来初めて。

有識者らと共に現場検証

同チームのまとめでは、過去2年の道内のサンタ目撃件数の合計は4813件。エリアは札幌市中心部に集中しており、さっぽろテレビ塔周辺が1028件と全体の21・4％、北海道四季劇場周辺が967件で20・1％を占める。「S・A・N・T・A」は、情報分析を専門とする「分析捜査班」が、これまで収集した画像や動画などの物証を再検証するとともに、ハイテク技術の専門家を中心とする「専従追跡班」が、目撃情報の集中した場所を重点的に調査・観測する。

「S・A・N・T・A」の秘密兵器として導入されたのが、超高性能フルハイビジョンカメラと赤外線カメラが一体となった撮影機器だ。赤外線機能により夜間での撮影が可能になり、ズーム機能が旧型の最大50倍から200倍に上がり、画像も鮮明になった。サンタの動きを捕捉するトナカイレーダーと連動し、数万㍍先から接近する物体を精密に捉えて映像を伝送する。現在、サンタ出現の可能性が高まるクリスマス当日に向け、試験運用が行われている。

18日、北海道新聞社で「S・A・N・T・A」の発足式が行われた。日本のサンタ研究の第一人者である北海道文化芸術総合大学の三田育三（みた・いくぞう）教授が本部長に任命され「今年こそサンタクロースの姿をとらえ、子どもたちに夢と希望を与えたい」と宣誓した。

サンタアイテムの秘密を公開！ MONO・SANTA

帽子

時速5000キロメートル以上で移動するサンタの頭部を守る温かくて頑丈な帽子。中には精密機器が搭載されており、全世界の「よい子」のデータやその家の地図、一人一人の「今年欲しいもの」の情報などが入っているといわれる。

クリスマス連載コラム X Santa（クロス・サンタ）

今年も、いよいよやってくるクリスマス。そんな聖なる日に向けて、家庭では親が務めなければならない大切な任務がある。それは、子どもとサンタとの「架け橋」になること。特に子どもと過ごす時間が長い母親には、その役割が求められることが多いだろう。「架け橋」とは、子どものプレゼントのお願いを預かり、しっかりとサンタへ伝える役目のこと。伝え方は、「サンタ宛ての手紙を親に渡す」「子が親に望みのものを話す」など、各家庭によってさまざま。しかし、いずれの方法も、サンタへ伝える際に苦労を伴うようだ。大人になり母親になってみて初めて、自分の母親の苦労に気付く人も多いのではないだろうか。

そんな今までお世話になってきた母親に、クリスマスプレゼントで感謝の気持ちを伝えてみてはいかがだろう。お薦めは、家族の絆を実感できる舞台『マンマ・ミーア！』。結婚式を控えた娘と母親の心の交流と絆、愛情を描いた感動作だ。世界的ポップスグループABBA（アバ）の往年のヒットナンバーで彩られたステージは、世界中で大ヒットを記録。今年9月に札幌に初上陸し、上演されている北海道四季劇場は、毎公演、笑いと涙と感動に包まれている。同作品を親子で一緒に見に行くことで、母親にとって忘れられないクリスマスの贈り物になるはずだ。そして、舞台の上で繰り広げられるドラマに夢中になり、笑い、涙を流す母親を隣の席で見ることは、そのプレゼントを贈った娘にとっても最高のクリスマスプレゼントになるだろう。

お母さんにも、「ハッピー・クリスマス」を

企画制作／北海道新聞社広告局

この広告企画はお子さまと楽しんでいただくため、夢のある構成となっています。フィクションを多く含みますがご理解、ご了承願います。次回は11月下旬朝刊予定

（C）北海道新聞社 無断転載、複製及び頒布は禁止します。